

## (27) 体育学教育における学士力の考察

CCC体育学運営委員会は、21年5月、7月、9月、10月の4回開催した。体育学分野では、身体及び身体運動による健康増進の重要性、身体運動を実践することによる心身の充実、スポーツの振興普及への取り組みなどを「力」を中心に検討した。その上で、サイバーFD研究員282人に意見を求めたところ、40人(14%)から意見が寄せられたが、一般教育としての体育を考えて寄せられた意見が多く、一般教育と専門教育の体育を明確にしないと混乱することから、体育・スポーツ科学の専門教育を対象としたことを明示し、以下のようにとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

※ 体育・スポーツ科学専門教育の学習成果を整理したものである。

### 【到達目標1】

身体運動による健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。

### 【到達度】

- ① 身体運動による効果の重要性を理解している。
- ② 身体運動の効果(筋力、心肺機能、平衡性、体脂肪率、骨密度等)を数値的に把握し、変化を自己評価できる。
- ③ 他者の身体運動の効果を評価できる。

### 【到達目標2】

身体運動の効果を感じることにより、心身ともに充実したライフスタイルを送ることができる

### 【到達度】

- ① 生活の中に運動を積極的に取り入れることができる。
- ② 運動により集中力を高め、それを持続できる。
- ③ 運動を取り入れることにより、ストレスをコントロールすることができる。
- ④ 運動を取り入れることにより、健康な体づくりに取り組むことができる。
- ⑤ 集団の中でスポーツや運動を通じて、周囲の人と協調し、意思決定を通じて一体感を得たり、自己実現を図ることができる。

### 【到達目標3】

スポーツ競技に関する知識・技能を習得し、スポーツの振興・普及に活用できる

### 【到達度】

- ① スポーツ科学の専門知識を身につけ、競技力向上に取り組むことができる。
- ② 競技スポーツを社会の活性化との関わりで考えることができる。

## (29) 体育学教育における情報教育

CCC体育学運営委員会は、学士力考察をとりまとめた後、22年1月に1回開催した。検討では、身体や身体運動の測定のデータベース化、データ分析と統計処理、表現に情報技術を必要としない教育、メディアを選択した効果的なプレゼンテーション、競技力のデータ測定と統計・分析、分析結果を踏まえた情報通信技術を活用した企画などをとりあげた。

### 【到達目標1】

身体に関する基本的な構造と機能の理解やライフサイクルの中で運動やスポーツに関する問題の発見と解決のために情報通信技術を活用できる。

### 【到達度】

- ① 身体や身体運動の測定と測定値のデータベース化ができる。
- ② 考察するために適正なデータベースにアクセスして、過去の知見を検索できる。
- ③ 収集したデータの分析と、そのために必要な統計処理ができる。
- ④ 分析結果(中間まとめ)を多様な情報通信技術を用いて効果的にプレゼンテーションできる

### 【教育内容・教育方法】

- ①は、目的に応じて測定し、その測定値を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いてデータベース化する。
- ②は、情報通信技術を用いてデータベースにアクセスする。
- ③は、データを必要に応じて統計処理し、分析する。
- ④は、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて情報発信する。

### 【到達度確認の測定手段】

- ①～④は、教育・学習支援システムなどにより、レポート、テスト、発表などで確認される。

### 【到達目標2】

運動能力や競技力を高めるためのツールとして、また、スポーツと社会との関わりをマネジメントするために情報通信技術を活用できる。

### 【到達度】

- ① 分析されたデータと照らし合わせ、運動観察をすることができる。
- ② 競技力向上に関わるデータの測定と統計・分析ができる。
- ③ スポーツの振興と普及に向けた調査・統計・分析に情報通信技術を活用できる。
- ④ 分析結果から、情報通信技術を活用して運動やスポーツの企画・立案・実行ができる。

### 【教育内容・教育方法】

- ①は、運動観察し、分析データとともに運動についてディスカッションする。
- ②は、競技力向上を目的とした測定、測定されたデータの統計処理、および、分析をおこなう。
- ③は、スポーツ振興と普及を目的に、調査方法の策定、調査、それによって得られたデータの統計処理、および分析をおこなう。
- ④は、ITなどを用いて、運動やスポーツの企画と立案し、さらに実践する。

### 【到達度確認の測定手段】

- ①は、教員、および学生間のディスカッションや相互評価によって確認される。

- ②～④は、教育・学習支援システムなどにより、レポート、テスト、発表などで確認される。